第六章

南海の女王陛下と関係する参詣地の数々

第一節　南海の女王陛下の聖地の数々

ジャワ人の神秘信仰によると、現在 Lawu 山の南部の頂上に位置していて Segarasewu 王国の都となっている南海の女王陛下の主御殿以外に休憩や宿泊地としてしばしば女王陛下が利用している場所がたくさんある。既出の場所以外に Pelabuhan Ratu の Samudra Beach Hotel の 308 号室、Kutowinangun の Padepokan Bulupitu、Karang Borong 海岸、Parangtritis 海岸、Parangtritis 海岸のとあるホテルのひと部屋、Watugilang Parangkusumo、Langse 洞窟と Langse 洞窟海岸、マランの南岸、Pangandaran、Nusakambangan の Masigit Selo 洞窟、東ジャワ州の Purwa の修行場の端などがある。これらの場所は南海の王国へ入ることのできる入口を形成しているのである。

これと同時に、著者は上記の重要な地点に関する解説を研究したので、しばしばジャワ人の神秘主義者たちの修行場とされた。ここに解説するものはすべてではないことは確かである。解説するものは南海の海岸沿いにあるものでジャワ人の神秘主義者たちが喜んで神秘主義信仰となった場所に限られている。

第二節　Pelabuhan Ratu の Samudera Beach Hotel の 308 号室の神秘と魔力

ジャカルタの Iwan Kamah によると、ロシアうまれで米国の輝かしいサイエンスフィクション作家である Isaac Asimov が著書「Isaac Asimov's Book of Fact = アイザック・アシモブの真実の本」に真実を書き込んだことがあった。この世で厄介で神秘的であるとしばしば理解されている数千の真実がありその中には論理に踏み込んで書かれている。奇妙なのは、健全な知識を持った人にとって信じがたい特異な真実があるということである。この記載とは「西ジャワ州の Pelabuhan Ratu 海岸の一軒のホテルにはインド洋海域の支配者の女神のための部屋がしつらえてある。」と Asimov は書いている。この記事が含まれた Asimov の本の読者にとっては躊躇されるものであり嘲笑の対象になろうとも、ジャワ島南岸地域に住んでいるジャワ人にとって、この真実は奇妙なことではないのである。

プラブハンラトゥーのサムドゥラビーチホテルの 308 号室の南海の女王陛下のための部屋

大多数のジャワ人にとって、この事実は空想ごとではないのである。Pangandaran の Pelabuhan Ratu 海岸地域を含め、民衆は毎年必ず海神祭りなどの伝統儀式を行い儀礼を欠かさない。Pangandaran 付近の住民のみならず西部ジャワ、中部ジャワ、東部ジャワやバリにまで至っている。Pelabuhan Ratu(女王の港の意味)という地名はこの信仰と深く関係している。現在に至るまで単に文化遺産としてだけではなくこの伝統儀式が行われているとはいえ、神秘的な伝統儀式としてサルタンの神秘的な事物も海に流されるジョグジャカルタ王宮でも行われている。このことは、現在化身してスラカルタとジョグジャカルタになったマタラム王家サルタンから「全ての王の上の女王」としての南海の女王陛下に対する「愛の証拠」の装置として行われている。

ジャワ人の神秘主義への理由付けによると、ジャワ島の各支配者は南海の女王陛下の「夫」なのである。その婚姻は、Panembahan Senopati がイスラムマタラム王国を建国する前に、6 世紀初頭頃の事実とフィクションが一部入り混じっている文献である Babad Tanah Jawi に記されており、しばしば南海の女王陛下と呼ばれている海の支配者と彼と能登間で合意が形成されていたことによるのである。それゆえ、マタラム王国は現在四つに分裂してしまったとはいえ、当家の支配者は「夫」あるいは最低でも南海の女王陛下の孫として信じられている。この四つの王家とはすなわち Kasunanan Surakarta Hadiningrat, Pura Mangkuneraran, Kasultanan, Ngayogyakarta Hadiningrat と Pura Pakualaman である。

ジャワ人は、南海の女王陛下はその将軍「南海冥府の女王」を使ってしばしば、王宮の使用人や兵隊を募集している、と信じている。募集に応じた人の一部は、ジャワ島南岸の海岸で泳いでいて、おぼれて行方不明になった人たちである。さらには、この人たちは南海の女王陛下の好む緑色、特に薄緑色の服を着ていた。(この話は、Khidir あるいは al-khadra は緑色を意味するので南海の女王と Nabi Khidir との関係を想起させる)

元アメリカ大使で 1066-67 にインドネシアに赴任していた Marshall Green がジョグジャカルタを訪問した際、彼の名前が Green なので南海の女王陛下が彼を好いていると冗談を飛ばした。彼は迷信を信じはしなかったが、Isaac Asimov が書いたようになぜ Pelabuhan Ratu の最大のホテルに女王陛下のための特別室が用意されているのかを Green は理解していた。南海の女王陛下の「募集」に漏れたので幸運であったと追加した。彼の友人で駐インドネシア・ブルガリア大使は 1965 年に Pelabuhan Ratu 海岸で波にさらわれて犠牲になった。南海の王国に応募した人たちの中でこの大使はたぶん最高の地位にいた人だろう。というのは、南海の女王陛下の部下になった人の大部分は普通の人達だったからだ。

やや奇妙な話ではあるが、南海の女王陛下の存在を信じているジャワ人たちは南海岸で家族が行方不明になっても心配しない。というのは行方不明になった人たちは南海冥府の女王の王宮に住んでいると彼らは信じているからである。

南海岸でおぼれて行方不明になった人たちはどこに行ったのかという質問の回答は神秘的でありかつ科学的である。ジャワ島の南海岸を出ると、そこは確かに茫漠たる海原が広がっているだけだ。南極大陸まで陸地はおろか島も存在しない。この大洋は沈黙を保っているだけである。〈180〉

2004 年に日本の海鷹丸が実施した水深 3000m までのソナー測量によると、海底は急峻な崖と水深約 3500m のトラフで構成されている。その位置は Parigi, Pangandaran から Cilacap の沖合約 222km に至る。この海山は水深 3000m の海底にある高さが 1500m である。やや平らなのは Pelabuhan Ratu 付近と Cilacap 付近の海域だけである。ITB の研究者 Totok Hestirianto によれば、この状況は地震があると変化するとのことである。この南海に流されて大波に呑まれて行方不明になった人たちは海底の丘の荒野にいるとかんがえることが私にとって普通なのである。海洋学が知られる前の昔に、波にさらわれた人々は女王様の宮殿に行ったと考えられた。数百年間いや数千年間にわたって信じられてきたこの神話は、この信仰を払しょくすることが困難な社会に根ざしているのである。

第三節　南海の女王陛下は Al-Qadr の章にあるアッラーの使徒か

この神話は理由がつけられないオカルトあるいは迷信ではなく、科学的な質問に対する前科学的な回答である。その通りに物事が発生しなかったりしたので誤となり、神話が人々の中で息づいているので本当となる。

単なる神話として片付けようとすると、南海の女王陛下の神話は実際に前科学的なのものとなる。非科学的ではないのである。ジャワの人達、まずは素人さんたちは適切な科学的思考法の段階には達していない。海洋学に対する理解はまだなく、なぜ南海岸の海がこのように御しがたく友好的でないのかは彼らにとっては理解困難なのである。

しかしながら、この神話の対極には実際に真実である、幽界や霊界の存在という要素が隠されている。南海の女王陛下のが自然界の守護霊として信じられているとしたら、コーランの一節 Surat Al-Qadar/97 第 3 節[1]の解釈によると、この信仰は正当化できるのである。この節でアッラーは毎回の lailatul qadar[2]の期間中に天使と聖霊を、アッラーのお許しと共に「あの世とこの世の問題解決する責務を得るために遣わすと述べている。〈181〉それ故これらに介入して、全宇宙の霊の平穏

[1] 第 4 節の間違いか?「天使たちと精霊が、主人の許しを得て、すべての定めを持って降りてくる。」(4) Wikipedia より
[2] 「覚醒の夜」とも呼ばれている。

を創造し続く時代を登場させるのである。それゆえに、礼拝所としての南海の女王陛下の「宿舎」として信じられている場所の選定は絶対に間違えてはならないのである。というのは南海の女王陛下はアッラーに遣わされた霊であるとも考えられるからなのである。

神話というものは社会の底流で息づいているだけではない。現代レベルの生活に分類される人たちも神話を信じているのである。1981-1989 年に米国大統領だった Ronald Reagan は神話というより迷信を信じた好例である。彼がカリフォルニア州知事に選出されたとき、彼は深夜に就任式を行いたいと希望した。どういう意図だろうか!超大国の指導者としてのこの行動も日の良し悪しに従っていたのであった。

神話へのこのような信仰で、レーガンも南海の女王陛下のような信仰をやすやすと信じた。サルタン Hamengkuwbuwono 九世が米国で亡くなった時、レーガンは大統領専用機の Airforce 2 で遺体をホノルルまで送るように命令した。その後インドネシアの航空機で故国に帰った。<182>なぜレーガンが南海の女王陛下の「夫」にこのような最高の礼を送ったのだろうかということは理解困難である。サルタンが米国に入国した時は国賓ではなく、治療の目的だった。さらには、サルタンはなんら政治的に重要な立場にもなかった。サルタンの遺体を輸送するために大統領専用機を利用したことは、南海の女王陛下の「夫」にむけた最高の礼であった。

サルタン Hamengkuwbuwono 九世が南海の女王陛下の「夫」になったというジャワ社会の理解はすべてが間違いとは言えない。Tahta Untuk Rakyat[3]という本の中で、この 1973-1978 年までインドネシアの副大統領を経験したサルタンは、常に表情が変わる女王の面影を描いていた。新月の時は美しい顔で、その反対に満月の時には醜い顔の女性になった。サルタンも特別な時、瞑想や伝統儀礼の断食の間に彼の「妻」に会わなくてはならなかった。

確かに妙なことであることは確かだ。筆者自身その「妙なこと」を体験したことがあった。この本の原稿をすぐに送らなければならなかった時、それを終わらせまいとするいくつかの困難を体験したのであった。その後、この問題を解決するべく隠

[3]「社会の中の王座」

遁修行と瞑想をしたいと思っていた。睡眠中に筆者は南海の女王陛下に会う夢を見て、この本の内容に追加すべき点などに関するいくつかの点を得たのだった。たぶん、他の人にとっては、この話は妙であろう。このような奇妙さは、ジャワ人の大多数を含む神秘主義者にとっては普通の出来事になってしまったにもかかわらずなのにである。

実際、女王陛下に会う方法にはいくつかがある。彼女の王宮名に入るための入り口になりうるのはジャワ島南岸の全てではない。訪問者にとっての「特定の入り口」が存在する。Gunung Srandil (Cilacap の Bethara Semar の住まいと信じられている)、Karang Bolong (Gombong)の Jatijajar 洞窟、Bulupitu (Kebumen)、Parangtritis や Parangkusumo (Yogyakarta)、Gunung Kidul の Dalepih-Kahrangan、Prambanan 寺院群の南に位置する Ratu Boko 付近である。そして女王に会う条件は自分自身を清めることと肉食を禁ずることである。〈183〉

第四節　スカルノは南海の女王陛下の「夫君」であったのか

Pangandaran の人達を含むジャワ人の信じるところでは、とあるジャワの支配者は、南海の女王陛下との関係がなかったときは強くも、大きくも、偉大にもなれなかった。だからこそ、Babad Tanah Jawa に書かれているようにジャワの支配者たちはすべてこの南海の女王の非公式な夫になったのである。この意味とはジャワの王は、実際には女王陛下の「夫」になったことで、強大な王になったということである。

この信仰とは何を意味しているのだろうか。文字通りに解釈しなければならないということではない。この話は象徴なのである。一つのシンボルである。「インドネシア共和国は、我々が南海と結婚するときにのみ強力になる」とスカルノは 1961 年の海軍記念日にスラバヤで叫んだ。インドネシアは海と陸との部分で成り立っているからである。このように、王と南海の女王との婚姻は、海陸の統一のシンボルとしての意味をもつというスラカルタの Gusti Pangeran Dipokuksumo の解釈も存在する。そして事実、インドネシアの元首は大きな力として海域を本当に大事にしなければならない、海はインドネシアの元首にとっての妻でなくてはならないからであ

る。スカルノは確かに海と結婚した。その治世下においては、インドネシア海軍は東南アジアで最強であった。西イリアンを急襲する準備をしている時がインドネシア海軍に集中していたのであ、それはナチスの最初の敗北となった連合国の1944 年のノルマンディー上陸作戦以降、最大であったと言われている。〈184〉

彼は海上での栄光がインドネシアにとって大きな力をもたらすことを証明したのである。その結果、西イリアンがインドネシアに戻ってくることができた。海域でも隠された富が溢れている。その海域で我々は大国であるということを証明した。スカルノにとって、海は隔てるものではなく繋ぐものであった。これは南海の女王陛下の「夫」としてのスカルノの忠実さを証明している。現在、ポスト・スハルト以来、それほど海には注目してこなかった。その結果として島のひとつ一つが小さいと考えられ隣国に取られてしまうことになってしまった。たとえ小さいと考えられている島々でも、国家防衛の視点から見て戦略的位置を占めており、将来のための大量の天然資源を有しているものでさえ。南海の女王陛下は確かにインドネシア国の元首の妃として戦っているのである。

第五節　Dalepih の天国洞窟と Langse 洞窟の神秘

KRT Wignyo Subroto, RM Ng Cipto Budoyo, RM Ng Sastro Purnomo BA (そして Tulus PE によって再度続けられた)Babad Tanh Jawa の話の抜粋によると、三人ともジョグジャカルタ王宮の文化と習慣をつかさどる Kawedanan Hageng Punokawan Widaya Budaya の職員であり、Kahyangan Dalepih の森が聖地としてなった背景とは、Kahyangan 洞窟が Sunan Kalijaga (Wali songo の一人)、Raden Danang Sutawijaya (Pajang の Sri Sultan Hadiwijaya の養子)、Raden Mas Rangsang (Sultan Agung Anyakrakusmo)、Mangkubumi 王子(Sri Sultan Hamengkubuwono 1 世)たちが修行に使ったことがあった場所であるからである。

第 1 項 Kahyangan Dalepih で修業した Sunan Kalijaga

Dalepih の天国洞窟と Langse 洞窟の神秘彼は聡明な段階に至ろうと修行を行

った。彼は Ki Widonanggo という名の忠実な生徒と知り合った。Sunan Kalijaga は礼拝の後で、数珠で数えながらズィキールを行うのが常であった。Ki Widonanggo がこの数珠を無理やり Sunan Kalijaga の手からむしり取ろうとした。しかし、数珠のひもが切れて数珠玉が Kedung Pasiraman に散らばってしまったためこのに悪だくみは成功しなかった。<185>

この数珠玉がまだ浮いているのを見た Ki Widonanggo はそれを取り戻そうと Kedung Pasiraman に直ちに飛び込んだ。しかし、Ki Widonanggo は数珠を取り戻すことができなかった。この行為により、Ki Widonanggo とその妻の霊は最終的には Dalepih の森で待つように言いつけられ。南海の女王陛下の部下になり、Dalepih の森の支配者となったのであった。

第 2 項 Panembahan Senopati が南海の女王に出会った場所

歴史物語によると、Raden Danang Sutowijaya は Ki Gede Pemanahan の実子であり Pajang の Suktan Hadiwijaya の養子であた。彼は長じて強大な超能力と統治能力を持ったように思われる。彼の能力は、青年になる直前の少年時代に Pajang に歯向かおうとしていた Jipang の領主の Arya Penangsang に打ち勝つことができたことで証明された。Haryo Penangsang は Ki Gede Pemanahan と Ki Penjawi の戦略で支持された Danang Sutawijaya の攻撃の戦死し、Ki Penjawi は Pati Pesantenan、Ke Gede Pemanahan は Mentaok の土地を与えられることになった。

Ki Ageng Giring の予言によると、将来、上記の Mentaok の土地は強大な王国になるだろうとのことであった。この予言は Sultan Hadiwijaya の懸念を創り出し、彼はこの Mentaok の土地を Ki Gede Pemanahan に与えるのを延期したのだった。だいぶ時間がたってから Sultan Hadiwijaya に対して Mentaok の土地の問題の約束の実行を促すように、Ki Gede Pemanahan は Sultan Kalijaga に助けを求めた。その

後直ちにMentaokの土地すべてがKe Gede Pemanahanに与えられた。

免税地となったMentaokの土地は人がたくさん集まり繁栄することになったため、やはりそれ自身で王国になったのであった。〈186〉 Danang Sutawijaya は自分が王の血族や王族でなかったので、皇太子としての安全性を心配していた。それ以外に、彼には配偶者としてのお妃候補がまだいなかった。それ故、Raden Danang Sutawijaya は神の恩恵を求めることとお妃の候補を見つけるための修行を行う時間を求めたのだった。

Raden Danang Sutawijayaの修行の旅は東に向かうものだった。Madiunまで来たとき、彼は Madiun の領主 Raden Ronggo Parawirodirjo の娘である Retno Dumilahに出会った。Raden Danang Sutawijayaはかれが Mataram の Sultan になった後で Retno Dumilah を妃として迎えるという願いを立てた。その前に、彼はRetno Dumilahがジャワの王の母になるというご託宣を受けていた。

その結果により、しばらくしてからRetno Dumilahはすぐに Mataramに連れてこられた。Mataram への道中で Raden Danang Sutawijayaは、アッラーの恩恵を得るためにSunan Kalijagaが苦行に使ったことがあるDalepihの森のことを思い出して、Raden Danang は Retno Dumilah と共に Mataram にすぐに戻ることをやめて、Dalepihの森のKi Pijuの家にしばらく仮住まいすることにした。Ki PujuとはDalepihの森で毎日薪を拾っている農夫であった。その妻 Ny Puju は、コブミカン[4]の若葉から作られるとして極めて有名な(今に至るまで Madiun 元祖で有名な、バナナの葉の容器に入れられたnasi pecel)を売っていた。

とある日、Sunan Kalijagaの故事に倣って苦行をするためにDalepihの森にはいることをRaden Danagn SutawijayaはRetno Dumilahに許可を求めた。その目的地は到達するのに困難で神聖な場所であったので、Retno Dumilah は家に残ることにした。

Dalepihの森を目指す道中で、Raden Danang Sutawijayaは、平べったい二枚の大きな石のところに至の、その石の上の端は互いに接していて人が通れる隙間があった。この石は現在に至るまでたっていて Batu Selo Gapit あるいは Selo

[4] Jeruk Purut, Citrus hystrix

Pangankep と呼ばれているものであり、彼はこの隙間を通って旅をつづけたのだった。平らな洞窟のようになっている隙間がある巨石でそのうえが傘のように広がっている巨石まで来ると、彼は立ち止まり、そこで熟考を開始した。<187>熟考を行った岩は sela pauung あるいは batu pamelengan と名付けられている。

Selo Gapit

Selo Gilang

Raden Danang Sutawijaya は敬虔な回教徒であったので、瞑想の patrap の方法で苦行を行っている間でも時間通りに行う五回の礼拝は欠かさなかった。礼拝の場に選んだのは Selo payung の南側にあるテーブルのように平らな黒く輝く石であった。この礼拝の石は Selo Gilang あるいは batu pesalatan と名付けられている。

このようにして、Batu Pesalatan の近くにある澄んだ水の滝で Radeng Danang Sutawijaya は朝夕沐浴を行った。この滝つぼは Kedung pasiraman と名付けられている。

Raden Danang Sutawijaya の Dalepih の森での行動はこのようなものであった。Retno Dumilah は Dalepih の森に入ってはならないという許婚者の命令に従っていたため、栄養補給のための飲食物は Ny Puju が運んできたのであった。数日後、Retno Dumilah は他の人と同様に、Dalepih の森にいることを好んだ Raden Danang Sutawijaya に嫉妬心を覚えた。

その後 Retno Dumilah は許婚者の行動を調べるように Ki Puju に指示した。それ故 Ki Puju は Raden Danagn Sutawijaya の行動を覗くべく森の中に向かったのであった。

ちょうどその日、Raden Danang Sutawijaya は、Kali Opak の河口（南海岸)での邂逅以来、彼の「妻」となった南海の女王陛下の来訪を待つべくこの石の上で瞑想を行っていた。この二人の男の出会いは気分が悪かったので、Raden Danang Sutawijaya は、瞑想の石から、より深い森に囲まれた selo Gilang に移ったのであった。

この邂逅で彼らは熱愛して、南海の女王陛下は当初の約束通り Mataram 王国の建国と社会が平穏になることを援助することに同意した。その結果彼らは会うだけでは満足しなくなったが、背の低い草むらから一人の人間が覗いているのを感じて南海の女王陛下はショックを受けた。南海の女王陛下は人の気配を感じていたのでその身を隠すとともに Raden Danang Sutawijaya の数珠が切れるにようにして Kedung Pasiraman に落ちるように仕向けたのだった。〈188〉この Raden Danang Sutawijaya の数珠が切れて散らばったことは今に至るまでいろいろな種類の話になっている。

Mangkunegaran 版では、南海の女王陛下と Raden Danang Sutawijaya の邂逅は Sunan Kalijaga の知るところとなり、彼が Raden Danang Sutawijaya を直ちに Mataram に戻るように仕向けた。しかし南海の女王陛下はそれを禁じたため、数珠が切れて Kedung Pasiraman に落とすようにすることで Raden Danang Sutawijaya は Mataram に戻るのを妨げられた。

Mataram 版では、南海の女王陛下と Raden Danang sutawijaya との邂逅は Retno Dumilah と出会った後で起きたことであるが故に問題が発生したと述べている。南海の女王陛下は Mataram にも止めことを許さなかったにもかかわらず Retno Dumilah が Mataram に戻ろうと誘ったため、後で南海の女王陛下が切れるまで数珠を引っ張ったとある。Raden Danang Sutawijaya の配慮で、二人の間に平和が訪れ、二人とも Mataram のお妃になるという約束をしたのだった。南海の女王陛下は第一妃で一方 Retno Dumilah は第二妃ということで了解された。南海の女王陛下

はRetno Dumilahを妹として承認したのだった。その時、Retno Dulmilah は美貌を高める緑色の上着と parangklitik の腰巻を着用していた。後日の伝説によると、Delpih の森や南海岸に行く時にはいつでも緑色の上着と parangklitik の腰巻を着用して行ってはならないといわれている。犠牲を伴うこの禁止事項に反したときはいつでも、南海の女王陛下あるいは南海冥府の女王の家族にされてしまうと信じられている。

驚いたのは Raden Danang Sutawijaya であり、彼の意に沿わない行為をした Ki Puju に激怒したのであった。Ki Puju を追いかけた時、それを押しとどめようとした南海の女王陛下に Raden Danang sutawijya の数珠が引っ張られ、Kedung Pasiraman に散逸したのであった。Ki Puju と Nyi Puju の魂は南海冥府の女王の召使となり、Dalepih の森の守護を命じられることなることで、Raden Danang Sutawijaya のこの目的は南海の女王陛下に留められた。このような話は今では神話となりたくさんの人たちに信じられているのである。〈189〉

今に至るまで、Dalepih の森にいろいろな目的をもってたくさんの人が訪れている。瞑想を行うもの、Kedung Pasiraman に散逸した Raden Danang Sutawijaya の数珠玉を探そうとする者、さらには金持ちになって成功したいと願う者である。

この数珠玉探しに固執する人たちの中には Nguntotronadi から Kedung Pasiraman まで川をさかのぼって[5]探すものまでいた。広く信じられていることによると、Raden Danang Sutawijaya と Sunan Kalijaga の持っていた数珠玉から作られた瑪瑙の石は生涯を通じて安全をもたらす力を有しているとのことである。一方、不幸に襲われる個人を助けるためにその石を使うことができると解釈している人もいる。例えば病気治療などである。

数珠玉を探す中には Wiroko 川をせき止めた Baturetno 郡の Galeng 村の人までいた。それ以外に、Raden Danang Sutawijaya の数珠が切れて Kekdung

[5] Wonogiri 県の Gajah Mungkur 貯水池から東へ約 10km の区間

Pasiraman に散らばったあと、南海の女王陛下は南海から幸運の石を追加したようである。Raden Danang Sutawijaya が Mataram のサルタンになるという神の恩恵を受けた後、彼は Retno Dumilah を伴って Mataram に直ちに帰還した。Raden Danang Sutawijaya が出発する前、Ki Puju と Nyi Puju を呼びつけて Desa Dalepih の天界の森に残りこれを守るように言いつけた。この二人のしもべは霊になるまでも今に至るまで Dalepih の森で待ち続けているのである。〈190〉

第 3 項　Sultan Agung は Kahyangan Dalepih で修業した

Raden Mas Rangsang は Mataram のサルタンの三世であり Panembahan Senopati の孫であった。彼が王座に就く前に、従者を伴って、彼の祖父が昔行ったように Kahyangan での沈思黙考を行った。Raden Mas Rangang は Sela Penangkap を経由して直接 Sela Gilang を目指し、そこで神の慈悲を受けるための瞑想を行った。

その場所で Mas Rangsang は故人ではあるがあたかも生き返ったかのような祖父 Panembahan Senopati の魂と会わせられた。祖父の霊は彼に Mataram での王権を受けるべく祝福を授けた。さらに、光輝く王の傘の形をしたお守りを喜んで与えたのだった。Mataram が繁栄するように、後日 Raden Mas Rangsang が Mataram を知恵の公平さで支配するようにである。続いて、Raden Mas Rangsang は Mataram に帰還して王位に上り、Kanjeng Sultan Agung Anyakrakusumo と称した。

第六節　Langse 洞窟は南海冥府の女王の休憩所

Dalepih Kahyangan 洞窟以外に南海の女王と関連する聖地とされているのは Langse 洞窟である。

Goa Langse

1600 年代には王国の初代王である Panembahan Senopati は、Pajang 王国の侵略の脅威からこの地方を守るための啓示を受けるために南岸地方で苦行を行った。この苦行を通じて Panembahan

Senopati は後日、南岸を支配する南海の女王と知り合うこととなった。この出来事以来、Panembahan Senopati はしょっちゅう南海との境となっている崖に貼りついている洞窟で南海の女王を訪ねた。<191>この洞窟はこの地区では神秘的な場所の一つであるばかりではなく、ほかには Tapan[6]洞窟と Sendang Beji[7], Siluman[8]洞窟がある。神秘主義者や参詣者が最もたくさん訪れるのは Langse 洞窟である。ジャワの土地の研究者であるオランダ人学者の Hermanus Johannes de Graaf によると、Langse 洞窟は南海の女王陛下のとして存在するとのことである。それ故に、この洞窟は Mataram の諸王がしばしば訪れたのである。おそらくこの洞窟で Syekh Siti Jenar や Sunan Kalijaga も瞑想を行ったことであろう。

異なる両世界の支配者たちが出会った場所は Langse 洞窟として知られている。この洞窟はジョグジャカルタ特別州 Gunung Kidul 県 Panggang 郡 Girirejo 村に位置している。現在に至るまで瞑想の場あるいは隠遁の場として知られているこの洞窟はジョグジャカルタから南方 30km に位置している。Langse 洞窟それ自体は南岸の聖地地域の中に位置している。とはいえ Langse 洞窟は最も背筋がぞくぞくする聖地でもあり、最強のヨニを有していることで知られている。一方南海の女王陛下の苦情の場を構成しているがゆえに、「蚊帳の洞窟」を意味する Langse 洞窟と名付けられている。いろいろな願いのための祈りを届けようとして毎日多数の人たちがこの場所を訪れている。Selasa Kliwon や Jumat Kliwon[9]の晩のような特別な日には訪問者が平均して 30 人を超えるのである。

ジャワ社会で恩恵の月と信じられている Suro の月でも、参詣者は毎日 70 人に達することがある。Langse 洞窟までの道中は大変印象的である。Parangtritis 海岸から Langse 洞窟までは東方にさらに 3km すすまなくてはならない。夜の道中は ojek[10]が利用できる。この ojek でも崖の淵までは行けず徒歩で果樹園の中の小道を 750m すすまなくてはならない。その後チーク林の中 150m ほど進むと、巨石がごろごろしている崖淵 Plawangan に至る。その下には水平線で区切られた広々とした青い海が広がっている。Langse 洞窟の北側に位置する Parangtritis 海岸も崖

[6] 「修業場」の意味
[7] 「沐浴の泉」の意味
[8] 妖怪の一種
[9] この日の夜は霊界とつながる日とされている。ただしこの前日の夜からこの日の朝までの時間帯
[10] オートバイタクシー

淵から見える。この崖淵の巨石の下には花びらが見られ、これは瞑想や祈願の場所としてしばしば利用されているということを意味している。〈192〉

とはいえ、ここは Langse 洞窟への道中の最終点ではない。この崖淵は肉体的精神的な挑戦となる道中の始まりでしかない。洞窟に着く前に芳名帳に名前を記載することを求められるとともに洞窟の維持管理のための寄付も求められる。ここから、ガイドさんに案内されて直接洞窟に至るのである。同地のガイドとともに訪問者は洞窟に至るには海面から 300m の高さに屹立した崖に沿って進まなければならない。合計すると、崖を降りるのに直立した鉄の階段(別な地点に 4 段)を使わなければならず、ほかの部分では岩壁に生えている草の根や木や竹につかまって岩の崖を登らざるを得ない。海面から 30m まで降りたあと訪問者は初めて洞窟に入ることができる。洞窟の入り口には Langse 洞窟への入口としての Semar の石像がある。

ジョグジャカルタの他の地域のものと比べても Langse 洞窟はより大きいと計算されている。洞窟の天井から多数の鍾乳石がありその長さは 30m で幅は 10m で、高さは 20m ある。洞窟の端には参詣者が普通に手足を清めたり沐浴するための泉がある。冷たく澄んだその水は高度のカルシウムを含んでいて、Langse 洞窟までの大変な道中の疲れをいやすのである。泉の横には沐浴の後行う瞑想の場としての平らな場所がある。〈193〉

南海の支配者との邂逅の場所という以外に知られているのは Langse 洞窟内には神秘的な墓所がある。この墓地の存在は現在に至るまでそこに誰が埋葬されているかが不明なのである。この墓はアッラーの代理人(伝道者)の一人のものではないかと推測されている。学術的な証拠を必要としているのは確かだが、この墓は Maha Patih Gajah Mada のものであるというものもいる。確かに Sumpah Palapanya

として知られている Gajah Mada 大臣の遺物に似ている遺産がたくさん奉納されている。その故にこの墓地はいろいろな目的や願いを持った多数の人たちが参詣するのである。

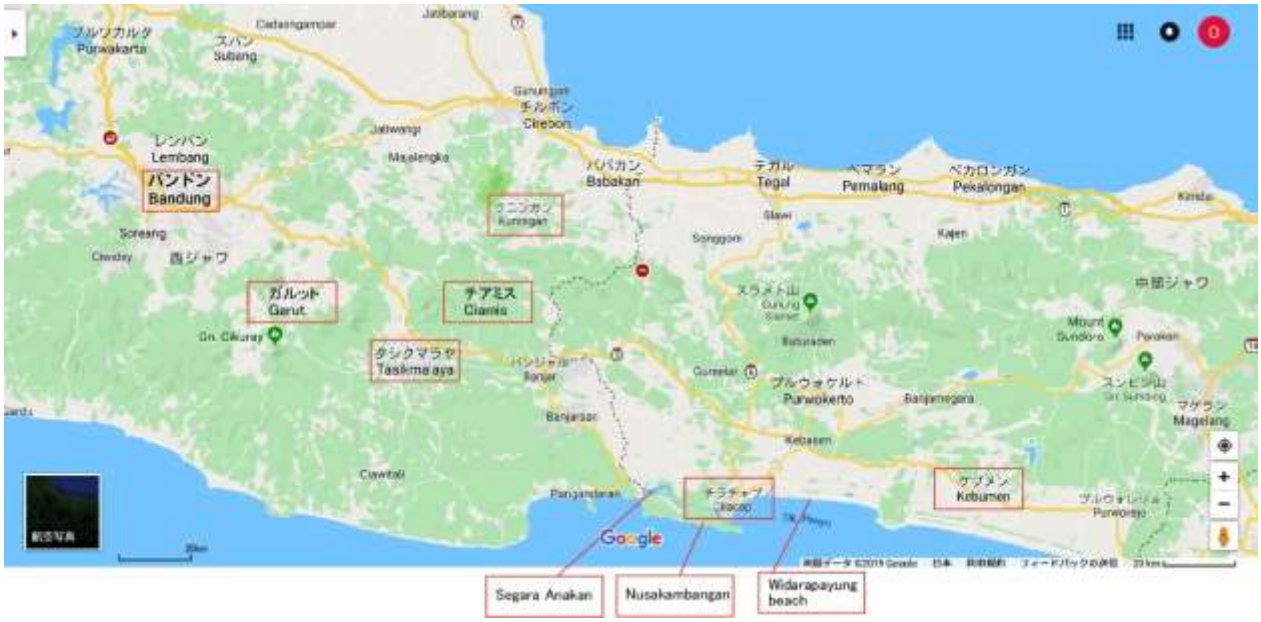
涼しくて静かなこの洞窟の雰囲気は精神集中や神の許しを得るための瞑想にとても役に立つのである。洞窟の外は、北側約 20m に展望台があり、そこからは精神を落ち着かせる海の青さや打ち寄せる波、サンゴの山々が見える。体は疲れているとはいえ、こここそが瞑想体験を通じて同人に自然が残る南海の風景を楽しむことで参詣者が全能者[11]の恩恵を称賛する場所なのである。神の祝福を得るためによく参詣する場所で Langse 洞窟からほど近い場所らは Tapan 洞窟と Sendang Beji がある。この両地点は Langse 洞窟に向かう 1km 手前にあり互いに近くに位置している。Tapan 洞窟は、王族の血縁であるが隠遁した Nyai Langgeng の苦行場であった。Langse 洞窟の管理人うちの一人が語るところによれば、Nyai Langgeng は彼女が父親の病気治癒を願うべく父親を瞑想のために Tapan 洞窟まで連れてきたときには彼女は白い虎に見えたことがあったとのことであった。

一方、Sendang Beji はガジュマル(beringin)の木の木陰にある透明な泉であり、常に水がわいている。普通、ここへの訪問者は Langse 洞窟で行ったと同じように透明な水を使う。Langse 洞窟に向かう道筋には、ハンググライダーの滑走路として崖淵に平たんな場所が広がっている。ここから Parangtritis 海岸や Opak 河口が見える。〈194〉言い伝えによると、この滑走路の下にはスカルノがオランダに追跡されたときに隠れた Siluman 洞窟がある。

第七節　Nusakambangan の Masigit Sela 洞窟の神秘

海外諸国にまで有名な Nusa Kambangan 刑務所以外に、Cilacap(チラチャップ)には興味ある観光スポットがいくつかある。Widara Payung の美しい海岸は魅力ある観光スポットの一つで Cilacap 県に存在している。

[11] わざわざここで「全能者」と言っているのはアッラー=主ではなく「神」を表そうとしたのではないか



町の中心からたった 35km であり、500 ヘクタールの広さを有するこの海岸は人々を飽きさせないのである。美しい Widara Payung 海岸の最も印象的なものは大きな波である。

Widara Payung 海岸はサーフィンに適する波があると評価している国際サーフィン組織[12]がしばしば述べている高い波があることは確かである。傾斜している海岸に打ち寄せる高い波を見ているとそれ自身が観光客をひきつけることがわかるのである。この海岸でサーフィンや水泳をしない人たちは観光客に無償で提供されている馬に乗ることをお勧めする。打ち寄せ砕ける波を馬に乗りながら楽しむことはサーフィンや水泳以外の魅力を与えることは確かである。ここでどうしても回ってみたいのが、Segara Anakan 海域の海の観光である。Tanjung Intan 港から一人当たり 5 万から 1 万ルピアで Compreng 船[13]あるいは小さい漁船を利用することができる。この Segara Anakan は、ジャワ島南岸にあるラグーンでジャワ島では最も完全マングローブの森で生態系を維持している。

Nusakambangan の南海岸沿いには、白浜海岸、Permisan 海岸、Karang Bandung 自然保護区などの生態系地域がある。Nusakmbangan の神聖さは魅力あるエキゾティズムと魅力も保持している。上記の刑務所の島には鍾乳石と石筍で埋め尽くされた多数の洞窟がある。Putri 洞窟、Ratu 洞窟、Masigit Sela 洞窟、

[12] Oraganisasi selancar internasional
[13] 渡海船(あちこちの島を回る船)

Penimbang 洞窟、Sikempis 洞窟、Lawa 洞窟など、ほかにも多数存在する。

多数の野生動物がいるマングローブの林の美しさを楽しむ以外に、水上村に立ち寄るとともに Nusakambangana 島の丘の麓にある Masisgit Sela 洞窟を訪ねることができる。Masigit Sela 洞窟には管理人がいる。この洞窟には多数の神秘的な物語があるのは確かである。それ以外に信じられているのはソロモン王から Wali Songo スカルノに至るまで彼らがここに泊まったということである。管理人の話では、高級官僚のみならず成功を願う一般人までこの洞窟で瞑想を行うとのことである。

しかしこれらの神秘的な物語以外に Masigit Sela 洞窟は、通り過ぎてしまうにはもったいないほどの鍾乳石と石筍の美しさを提供しているのである。

Masigit Sela 洞窟は、モスクの内部に似ているのでユニークであり Nusakambangan の西部に位置する洞窟は一般的に Masjid Batu[14]と呼ばれているが Masjid Sela とも呼ばれている。この洞窟はもともと Masigit Sela 洞窟という名であった。その内部はモスクの内部のようにアーチ形の天井で鍾乳石と石筍でかざられている。またその西側部分には Kiblat[15]の方向に向いたイマム[16]のいる場所に似た小さな隙間がある。

他の部屋にも沐浴場に似た泉が見受けられる。それゆえ、天然のモスクとしての条件をかなえているのである。なお、入り口に大太鼓が置かれている。

しかし、この洞窟をモスクと理解することから離れると、数百年を経過した上記の洞窟は現在 Masigit Sela 洞窟という名で知られている。この洞窟は現在 Cilacap 県の主要な神秘的観光スポットの一つになっている。

南海の女王陛下と関係を有する他の幾つかのスポットのように、特定の日、Jumat Kliwon や Selasa Kliwon その他イスラムの祝日にはこの洞窟をあちこちから人たちが訪ねてくる。彼らの目的は神の恩恵を得ることと、人生上の複雑な問題を解決することで自分に打ち勝つことである。一般的には禁欲や隠遁を行うためとはいえ参詣者はただの参詣ではなく特定の願いをもっている。Masigit Sela 洞窟

[14] **石のモスクの意味**
[15] 礼拝の方向。その地点とメッカと地球中心をとおる平面と地球表面の交線の方角。
[16] イスラム式礼拝の指導者

で三夜から六夜まで過ごすものもいる。〈196〉

こうなのではあるが、この期間内に彼らの意図するものに関係して喜ばせる神からの指令を得ることができるかどうかは定かではない。こうであるから、彼らはこの努力がその数日後に得られるとしても、「全能者」の恩恵を得ようと努力してしているときには彼らは楽観的であるので、恩恵を得るために滞在を延長したりするのである。

Masigit Sela 洞窟の管理人は、40 日間もこの洞窟で隠遁修業をしたとしても、皆がその間に神の啓示をすぐに得られるわけではないことは確かだと言っている。彼らが故郷に戻った後に望みのものが神に与えられると固く信じていたとしても、かれらは何も得るものなしに絶望的になって帰郷するのである。この件は仕事で成功をすでにおさめつつある参詣者たちがつくづく述べていることである。

Masigit Sela 洞窟は Cepuri Parangkusumo と異なり、Nusakambangan の Masigit Sela 洞窟で神の恩恵を得ようと修行するに、今に至るまで基準となるやり方の指導はない。参詣者は気の向くままに隠遁修業を行うか、彼らが指名する特定の管理人の指導に従うのである。Masigit Sela 洞窟ではその管理人を関知していない。

Masigit Sela 洞窟で神の恩恵を受けるために隠遁修業の方法で、しばしば医療と信仰の性格を持つものの融合が見られる。こうであっても、この洞窟への参詣者はますます増えたがゆえに、洞窟内には線香の灰の山が多数みられる。その一つは洞窟の入り口にあるのである。

自然と、Masigit Sela 洞窟は鍾乳石と石筍の美しさを有しているといえる。そのひとつは入り口から見て左側の部分にある石筍である。この石筍は黄金色で広げられたマットレスの形をしている。多分、これがマットレスに似ているので、ソロモン王のマットレスと呼ばれているのであろう。一部の人たちは、これこそがしばしば南海の女王陛下の寝台になったのだと信じている。

ソロモン王のマットレスからほど近く、泉に近い場所に石筍が見られる。この石筍は 30cm のへこみを有しており瓶に似ているゆえに、この石筍は「兵隊の瓶」とし

て知られており、おそらくこの泉は Aji Saka[17]の兵士たちの沐浴のために使われているのであろう。〈197〉

一方、寝台のある部屋とほかの部屋を隔てている石の壁には60から75cmの鍾乳石と石筍でできた屋根がみられる。参詣者たちはここをAji Sakaの瞑想の場として識別している。この Aji Saka の柱を両腕いっぱいに広げてようやく抱えることができたら、おそらくその願いは聞きどけられるのであろう。

Masigit Sela 洞窟が神秘主義的な場所として使われ始めたかは定かではない。洞窟入り口の左側に埋め込まれている石碑の指示からとは言え、この洞窟は Solo Paku Buwono 十世時代からあるいは洞窟一帯が Segara Anakan 海域の一部をなしている時代からたくさんの参詣者でにぎわっている。

時代の進歩とともに、Masigit は、独立戦争当時の司法省の高官たちを含んで実際に多数の参詣者でにぎわうようになってきている。この件は洞窟入り口の左側に埋め込まれている石碑で強調されている。おそらく、これらの参詣した高官たちはよりよい地位を熱望しキャリアを積み重ねていこうとしたのであろう。洞窟の管理人の中には、より良い地位を得ようとこの洞窟に今に至っても参詣に来る中央政府のみならず地方政府の高官たちがいる、というものもいる。それでも、この高官たちはその存在を秘密にしたがっているのである。

この神秘的な観光スポットにたどり着くのは簡単であるといえる。そこにたどり着くことができるとしても、そこへは Cilacap から船を使わなくてはならない。賃船を使うか Cilacap - Majungklak (Ciamis)間の渡海船を使うこともできる。渡海船を使う参詣客は Motean (Kampung Laut=水上村)で下船し、そこの住民の小舟に接続する。

Masigit Sela 洞窟の管理人の一人は、おそらくMasigit Sela 洞窟のサルタン国まで貫いていると思われる長い廊下の存在が現地の諸洞窟の中でもっとも有名にしているものであると言っている。この洞窟は数日間の瞑想やおこもりを行おうとする参詣者たちにとって jujugan(好んで来訪する)場所になっている。〈198〉霊感を求めたり運命を呪ったりするのである。参詣者の大多数は Ciamis, Tasikmalaya,

[17] 伝説上のジャワの初代王で文明をもたらしたといわれている。

Garut, Kuningan, Cirebon, Bandung と Cilacap からの人たちである。

西ジャワ州 Ciamis 県 Kalipucang 郡 Majingklak 漁港から Masigit Sela 洞窟はもっと近いのである。Kampunglaut 郡の事務所から約 2km である。Segara Anakan での海釣りの後で休憩のために Masigit Sela 洞窟を訪ねるのもなかなか趣がある。さらにこの地域には、Rafflesia, Kembang Wijayakusuma (Pisonia Sylvestris)[18], Platar Jawa (Dipterocarpus Littoralis)の多数の原生花園がある。また Macan Kumbang (Panthera Pardus)、ハリネズミ(Hystrix Brachyura)、センザンコウ(Manis Javanica)、グリーンスネーク(Phyton sp)やキングコブラなどの野生動物もいる。Kembang Wijayakusuma は南海の女王陛下が好む神秘的な花であると信じられている。

Cilacap 県の住民の間では Nusakambangan 島は 2006 年 7 月 17 日の津波による人名被害を最小化することができたと信じられている。この理由から、このジャワ島の最南端のこの島は津波が再度発生した際にも防波堤になってくれるのである。しかし、この島のちょうど真ん中には、PT. Holcim Tbk がポルトランドセメントの材料として採掘している石灰鉱山があり、脅威となっているその鉱脈は Masigit Sela 洞窟のある丘に迫っているのである。

第八節　Kebumen 県 Kutowinangun の Bulupitu 遺跡の Patih Lebet の伝説

今まで見てきたように、南海の女王陛下には Nyai Riya Kidul という名の部下(大臣であり総司令官)がいる。Pelabuhan Ratu と Parangkusumo 海岸での pesugihan[19] の洞窟に関連したこの名前以外に、上記の伝説も Kebumen の海岸地域のジャワ社会で信じられているもののひとつである。かれらによるとこの Nyai Riya Kidul は南海の王国における内務大臣であるとのこと。

そのはじめ、南海の王国の内務大臣は Dewi Nawangwulan という名の天女であった。彼女はとある湖で友達とともに沐浴をしていたが、期せずして Jaka Tarub という名の青年に羽衣を奪われてしまった。ともだちは羽衣を着て天界に戻ったが Dewi Nawangwulan はその運命を深く考えて泣くばかりであった。最終的には Jaka

[18] 白眉孔雀(ハクビクジャク)。他の植物はご自分で調べてみてください。
[19] 金持ちになるために呪文を唱える場所

Tarub が羽衣をもって隠れていた場所から現れた。羽衣を返してもらいたかったので彼女は悲しい気持ちだった。その後、Dewi Nawangsulan は Jaka Tarub の家に戻ろうと誘われて最後にはこの二人は夫婦となり仲良く暮らしたのでした。

月日が流れ、子供が生まれるとDewi Nawangwulan は納屋の中に Jaka Tarub が隠した羽衣を見つけてしまった。こういうことで彼女は元のように空を飛ぶことができた。彼女は別れを告げ Jaka Tarub に子供を預けて天界に戻っていった。なんと不幸なことか、彼女は天界の番人に天界の住民になることを認められなかったのである。彼女は、世界で長いこと人間になっていたことを責められた。最終的に、天界の門番たちによって、彼女は南海の支配者の部下になることを責務とされた。南海に放たれた後、彼女は取り立てられて Nyai Riya Kidul という名の内務大臣になったのである。この大臣のいる場所は、Penatahan と Kebumen の海岸地域の人たちによると、Kutawinangun Bulupitu にあるDewi Ayu Nawangwulan の沐浴場である。今に至るまで、この沐浴場はジャワ人たちによって、Dewi Ayu Nawangwulan を崇敬する場所として使われている。この場所は、苦行を行ったり、その他の神秘的な行為のための神聖な場所の一つとして認められている。

第九節　Panembahan Senpati と南海冥府の女王との愛の Parangkusumo 海岸と南海の王宮への入り口

Langse 洞窟以外に Parangkusumo には有名な場所がある。ここには Senopati が礼拝に使いかつ、Parangkusumo 海岸に住んでいる霊体の支配者で Mataram の諸王の妻として信じられている南海の女王陛下と対話した互いに離れた二つの岩がある。この二つの岩はフェンスで囲まれており、中に入るには管理人の許可を得なければならない。〈200〉

この地域は西暦 1000 年以来、聖地とみられている。この地は Mataram 地域を支配するための Ki Pamanahan の来訪以来、宗教上の聖地として崇敬されていた可能性がある。イスラムの伝播以前にも数か所で南海の支配者に対する崇敬がすでに始まっていた。Mataram 王家の人たちとは利害関係がない Syekh Bela-belu の伝説があるのがその証拠である。さらに Syekh Maulana Maghribi と

Kyia Ageng Selohening の墓地も存在する。この三人のイスラム伝道師たちの墓地は現在、特に火曜日と金曜日の kliwon の日は、Parangkusumo で賑わっている神秘的観光地となっている。

多分、南海の女王陛下に関連する Syekh Maulana Maghribi の墓所の存在がそれを正当化する神秘的な推理をまだ有しているのであろう。Babad Tanah Jawi の中で、Dewi Rasawulan がその地域の澄んだ水の泉での沐浴のために訪れた時に Syekh Maulana Magribi が Parangkusumo で苦行をしていたことがあった、と語られている。神の思し召しにより、Dewi Rasawulan は夢を見てこの湖で見かけた人、Syekh Maghribi 本人であった、と同衾したと感じた後に妊娠した。Rasawulan は将来 Ki Ageng Tarub の妻になる Dewi Nawangwulan を産んだ。この夫婦は Nawangsih という娘を設けた。Dewi Nawangwulang は、Ki Ageng Tarub が隠した羽衣を後日発見したが、彼女はすでに人間と結婚したため、天界に戻ることができなくなっていた。それゆえ、彼女は霊界の女王陛下の総司令官になった Nyai Rara Kidul(南海冥府の女王)となったのであった。(Santoso, 1979: 82-83) この話は、Nyai Blorong として知られている南海冥府の女王は南海の女王陛下の娘であるという Pangandaran の人たちに伝わっている伝説を想起させる。もしそうであるなら、南海の女王陛下とは天女と同じ性格を持つ Dewi Rasawulan となるのである。

「Parangkusumo は精華(貴族たち)の性質を開花させる場所である」とは Dr. Damardjadi Soepajar の言葉である。ここそが以前に Panembahan Senopati が瞑想を行って南海の支配者を呼び出していた場所である。この場所は確かに心を落ち着かせる場所であり、熟考の場所として理想的である。神秘主義者たちによればこの場所は、重荷を背負っている人たちに救いの手を伸ばしてくれる場所であるとのこと。

この場所でも神秘主義者たちが将来を見通すためにしばしば瞑想を行うのである。神秘的であるがゆえに、Parangkusumo 海岸の入り口にある、その前庭が黄金色に彩られている南海の王国の宮殿の門がちょうど位置するということになる。

Parangkusumo 海岸は Parangtritis 海岸の西側に位置しており、Parangtritis 海岸に負けない景色が広がっている。この海岸付近ではこれ以外に、コンクリートの

塀で囲まれた二つの石灰岩の岩がある。この付近の住民に祀られているこの場所は Cepuri という名で知られている[20]。〈202〉

愛の石

Cepuri

ジョグジャカルタ市から 30km 離れた海岸で南海(インド洋)の応急への入り口の一つとして信じられている Parangkusumo 地帯に入ったとたんに聖なる雰囲気を感じるのである。花売りの列を通るとき、奉納するものの一つとしてのお香の香りに交じって花びらの香りが直ちに感じられるのである。このような雰囲気は他の海岸では感じられない。

Panembahan Senopati が南海の女王と出会って契約を結んだ Puri Cepuri の中にある「愛の石」への供物や花びらを見るとあなたはさらに聖なる感覚に浸るだろう。その時 Senopati は二つの石の北側にある大きな方に座って瞑想を行っていて一方南海の女王はかれに近づき南側の小さい石に腰かけた。この一対の岩こそしばしば love stone と呼ばれるものである。この愛の石をともなう Cepuri は、例えば海神祭りのような伝統的神秘的性格を持つ儀式にとって重要な場所となっている。海神祭りの供物は海に投げ込む前に Cepuri に持ち込んで管理人に祈祷してもらうのである。

[20] 訳者がここを訪れた時(2007 年 2 月 4 日)にこの門の中に入っていく薄絹の緑色の裳裾を見た。もちろん門の中には誰もいなかった。写真は訳者撮影のもの。

Senopati と南海の女王との邂逅は、独特で南海の女王陛下に支配されている Segara Sewy 王国の当地の中心になっている Balai Sokodhomas 宮殿とジョグジャカルタの王宮との関係に影響を与えている。<203>この邂逅こそが、異次元の王国の支配者間での聖なる「契約」を生んだのであった。この契約は、ジョグジャカルタの王宮を南海の王宮と緊密な関係を持つ Mataram の一部分としたのであった。その証拠とは、奉納の形式として小規模の海神祭りを毎年行うことである。海神祭り中の一つの行為は、Puri Cepuri Parangkusumo の地域に直接サルタンの爪や髪を衣服と共に埋めることである。

Labuhan 2017/7/30

結果が結実した Senopati の苦行は、どんな願いでも「愛の石」の近くで願いを唱えると回答が与えられるといった信仰を多数の人々に与えもした。社会階層も宗教も異なる数百人の人たちが聖なる日と考えられている日々にこの地域を訪れるのである。愛の石への参詣は各人への重い負担を取り除くことの一助となり、いきる元気を再生することができるのである。愛の石の観光と海神祭り以外には馬車に乗って海岸を回遊することができる。東から西に向かって Parangkusumo のそれぞれの観光地をむけて馬車は進むのである。馬車に乗りつつ大波が打ち寄せるのを見て楽しむとともにさわやかな風にため息をつくだろう。

Ngayogyakarta Hadiningrat[21]のみならず大衆たちからの各種の海神祭りがこの Parangkusumo 海岸で挙行されている。例えばヒンドゥー教徒たちによって祝われる Nyepi[22]祝祭日の儀式としての Upacara Melasti である。これ以外にも、宮廷と南海の支配者との間の支配と連携を象徴化したお祝いとして Parangkusumo で宮廷主催の海神祭り[23]がある。南海の女王陛下に向けた Parangkusumo での海神祭りは、ジョクジャカルタの人たちの永遠と安全、平穏のために Ngayogyakarta Hadiningrat 王宮にとって大切な伝統儀式のひとつなのである。<204>

[21] ジョクジャカルタの宮廷の名
[22] サカ歴 10 月に行われるバリの正月の行事。
[23] Labuhan Keraton

他方、Muharram (Suro)月の初日の晩に行われる別な海神祭りがある。これ以外にも Muharram 月の 15 日の晩にはジョグジャカルタの Gowongan Kidul で全知全能の神にたいする安全の祈りが海神祭りと共に毎年行われている。毎年行われる Suro 月の 15 日の晩の海神祭りの儀式は、東ジャワ州 Kediri 県の Menang 村にある Sang Prabu Sri Adji Djojoboyo[24]の遺跡で Suro 月の 15 日に特別に行われる。

この海神祭りの実行そのものは、8:30 から傘をさして貢物を持った行列で始まる。Parangtritis 海岸のあずまやから Parangkusumo 海岸で停止する前に Cepuri を目指して海岸に沿って進む。海神祭りに参加する人は全員伝統的なジャワ衣装に身を包むのである。男性は腰巻と surjan、blangkon[25]を身に着ける。一方、女性は腰巻と kebaya、鬘をつけ、そしてもう一つ彼らが着る衣装は緑色でないものである。

この儀式が頂点に達する前に、彼らは海岸に向いて砂の上で胡坐をかいて座る。この儀式自体は 9:00 から始まり、一時間後には caos rerakiting と呼ばれる海への貢物の献上が続くのである。その前に Parangkusumo 海岸の管理人によって海神祭り uba rampe が促されるのである。その後、女性の一群が、穢れを祓う形として花をまくのである。その後、この海神祭りと Parangtritis 海岸の四阿から行列している供物は Parangkusumo 海岸へ向かう海神祭りの終わりとなるのである。

海神祭りとは安全と平穏を与え苦痛を避けさせてくれた神に対する感謝の形なのである。

Parangkusumo 海岸へのビジターたちは、上記の Cepuri に自由に出入りすることは許されていない。彼らは Cepuri の Panembahan Senopati の聖域に入る前に履き物を脱ぎうるさくしてはいけないのである。ビジターの大部分は各地からやってきた参詣者たちである。早く結婚相手を見つけたい、金持ちになりたい、もっと権威をつけたいなど彼らはいろいろな目的をもってやってくるのである。しかし、ここで重視しなくてはならないのは、ここは祈願の場所ではないということだ。通常、かれらが祈願をする前に常にこの Cepuri は祈りのための場所であり施設であると呼ばれている。そして、ビジターたちはこの石に対してではなく全知全能の神に対し

24 クディリにあるジョヨボヨ王の遺跡
25 ジャワの長袖の上着と帽子

て願い事をするようにアドバイスされている。以上は Cepuri の管理人の話による。

実際にはこの場所は毎日公開されているが、もっともにぎわうのは Selasa kliwon と Jumat Kliwon の晩である。この場所は今に至るまで多数のミステリーを保持していると信じられている。Cepuri の管理人が語るように、多数の参詣者たちが憑依を受けるのである。その大部分は規則に違反したり穢れた目的を持っているからなのである。したがって、この場合、これがエクスタシー状態にあることを示している意味ではなく、その目的が間違えていたり、この場所でのやり方が間違えていることになりうるのである。これは神の偉大さとともに、神の創造物すべてに対して謙虚であれという人間に対する指図としての証拠となるのである。したがって、この場所で神秘的なことを行うことは、このような神秘的な高いオーラを有しているものや場所、Cepuri Parangkusumo とこの愛の石は祈願を召致するために選ばれた施設としてだけ存在するので、石への礼拝の行為としてということはできないのである。

Cepuri Parangkusump で隠遁修業を行ったことがある人の一人は Diponegoro 王子であった。ジャワ神秘主義者たちの幾つかの説によると、オランダに対抗していた時 Diponegoro 王子はこの Cepuri Parangkusumo で隠遁所業を行ったとのことである。この時 Diponegoro 王子は、同王子の武器として Keris Sarotama[26]の名で知られる cundik(小さいクリス)の形をした武器を南海の女王から獲得したのであった。〈207〉

クリス　サロタマ

Diponegoro 王子

26 下の写真参照。右端は Diponegoro 王子

この cundrik は Diponegoro 王子が Parangtritis で沐浴をした後獲得したものであり、そのあと Parangkusumo の Watu Gilang で隠遁修業しながら寄りかかっていた。多数のジャワ神秘主義者たちの解説によると、この時、Diponegoro 王子はオランダが提示するいかなる地位も受領してはならないという姿を見せない南海の女王陛下からの忠告が聞こえたとのことである。

この声が聞こえなくなった後、Diponrgoro 王子の目の前に天から白い光が差した。実際にこの白い光は cundrik をもたらしたのであった。この遺産は Sarotama と名付けられた。この cundrik こそが Diponegoro 王子のやる気を燃えあげたものであった。

第十節　自然現象:Parangkusumo の土の山は東南アジア唯一

Parangkusumo はジョクジャカルタ地域の学校や道場の精鋭たちに大きく貢献している。少なくとも Satria Nusantara というシラットの学校はこの地で昇段試験を行っている。また練習場にもなっている、これは Parangkusumo の高い塩分濃度とと深く関係しているため tenaga dalam[27]の練習に大変役に立つのである。

知識としては Parangkusumo で興味を惹かれる特徴がある。この愛の石以外に、この場所では砂丘と呼ばれる砂の丘が続いている。「この地域にある砂丘は熱帯多雨地域ではまれなものである」と UGM[28]の地理学科の講師であり地形学の専門家である Dr. Sutikno は言っている。東南アジア地域で砂丘があるのはここだけである。他方、ほかの地域で同じような砂丘があるのはサウジアラビアと中国のゴビ砂漠である。

砂丘があるのは、火山灰を噴出する Merapi 山の活動に支えられているからである。この火山灰は Opak と Progo 川を流下して Parangtritis の砂浜にとどまるのである。東側の急な壁に強められた海風は平地に打ち上げられた砂を飛ばして、

---

27 瞑想などの精神集中により体内の気を高め超常現象を起こすもの。
28 Universitas Gajah Mada = ジョクジャカルタの有名な国立大学。日本で言えば京都大学。

場所だけではなくその形も絶えず変化する砂丘を形成したのである。〈208〉

Sukirno によると、雑誌 Snar の 1996 年 5 月 18 日号に引用されているように、地学(特に地形学)で、丘は数千年のプロセスを通じて出来上がった自然の研究所であるとりこと。Parangkusumo では、三日月形砂丘やパラボラ型砂丘、くし型砂丘縦砂丘のような丘がいくつも存在している。現在このようなタイプはすべてがあるわけではない。しばしばみられるのは三日月形砂丘と縦砂丘だけである。

この砂丘の持続可能性には多数の脅威が存在する。緑化計画とこの付近への住宅地の進出などがその例である。毎年そこで大学生たちが調査を行ってはいるが、学者たちはこの地形に権威を有していないのは確かである。実際には多数の研究家や大学生たちは例えば自然の研究所や観光スポットとされるかはすでに準備ができているとは言うものの、へこんだ砂の形をした自然物が見られるオランダとドイツ国境付近で行われているように多数の観光客でにぎわっているのである。これらすべては出版物の存在とこの現象を解説する者の存在によるのである。最近の五年間[29]で Parangkusumo の砂丘は、シンガポールという隣国の地理学の学生たちの興味を引いているのである。残念ながら政府は Parangkusumo の自然の状態を保全しようと全力を投じているとは思えないのである。

この支配権がないということが付近の多数の住民たちに砂丘付近に小屋を建てさせた。その結果として、この小屋を建てたその付近の住民の話では、毎日朝夕に家が砂で埋まらないようにどかすのが仕事になっている砂で家が埋まらないように家の前の砂をどかさざるを得なくなった。〈209〉

以前実施された緑化計画は実際には砂丘を根絶する役割を有していた。この物議を醸しだした緑化のための意図された場所での大プロジェクトは現在砂丘地帯からカユ・プティの木と牧草が広がる平野になってしまった。確かに砂丘は Parangkusumo の端、Kali Opak の岸の村落を通過する道路となっている街道の北側に残されてはいるが、大部分は消えてなくなってしまった。まずは豊饒である農地を囲むことで確かに緑化計画は必要ではある。自然科学と観光客の興味を引くものとして発展させるための大きな可能性をもつ大自然という要素があるとしても、

[29] この本は 2002 年出版

このことは近隣住民の農業にはかなわないのである。

現在の砂丘形成の行動は確かにまだ行われている。しかし、上に述べた制約以外に、砂の供給は現在、関係者たちや近隣住民が建設資材として使うためにしばしば盗難にあっている。この砂泥棒は Sungai Boyong あたりの川の上流側で起きている。この砂の盗掘は Sungai Progo 河口の浸食が激しくなっていることに影響している。Kulingprogo 県の海岸線は確かに変化してきている。現在より詳細な調査が行われてはいるが、Parangtritis の海岸線で起きたことと同様になりうるのである。

第十一節　Parangkusumo には他の支配者がいる

Cepuri の岩という持ち上げられない二つの「愛の石」と Parangwedang の温泉はこの二つは「持ち上げることができる」石であるという学術的解説が得られるのである。〈210〉この構造的観点からみると、Parangtritis 地域はユーラシアプレートとインド・オーストラリアプレートが接している地点なのである。Cepuri のこの二つの岩は北側の丘陵地域との関係を持つことが明らかである溶岩なのである。

この二つのプレートはまた Parangkusumo からほど近い Parangwedang の温泉の湧出にも影響している。Parangwedang の温泉水は温度が高く、硬度も高い。この地域ではその負の影響があるとともに、東側の山岳地帯を水源とする地下水はこの地域を流れ地熱を得るのである。

Paranghatmojo 集落の長老であり Parangwedang の番人でもある人が語ったように、Parangwedang の定期的な温泉療法で治療できる一般的には皮膚病、リューマチ、腰痛などの多数の病気がある。しかしながら上記の温泉水の化学分析を行った Dr. Sutikno による臨床実験によると、彼は温泉水の中に硫黄分が含まれているのを見つけることができなかった。含有元素の主なものは Na, Cl, Mg である。だからリューマチの治療薬として彼は高い水温(約 36℃)であるとあげているが、一方、皮膚病に関しては温泉水に硫黄分が含まれていないのでその効果はいまだに疑問なのである。

Parangtritis の観光資源としての負担は確かにとても重いものがあると感じられる。砂丘の波と黒い砂にさす太陽光線にいろいろな必要性があるのである。Bantul の郡役場はその潜在力はまだ十分に生かし切れていないとは立場なのであるが。投資者たちに対する要請も名実ともおなじである。この問題は想像するに難しい、Parangtritis はいろいろな側面を有しておりその「支配者」は Bantul の郡役所だけではないことを思い出させるのである。事実上他の支配者も存在する。数千年間続いてきた伝説はこのように簡単に払しょくできるものではなく、その輝きは世界的なものでもある。

本来なら Parangwedang の再興のために SK 20/CB/PK/DIY/93 の行政命令でここが文化遺産となることが決定している。この配慮にもかかわらず、この付近の住民にとっては、コンサルタントの死に象徴されるように、南海の女王陛下を含んだ Parangwedang の地縛霊からの恩恵を受けることがない、というような彼らの信心によるものであるので、この行政命令は大変良くはないと理解されている。〈211〉

約 1000 年前の古マタラム時代以来聖地とされてきた Parangtritis 地域には十分注意を引く別なものがある。

観光産業の方程式には sand, sun, sex の 3S で知られるものがある。それは目に見えるものではないがこの要素を探すことは困難ではない。上記の性産業の従事者たちは土曜日の晩から忙しさが始まり、夜が始まる黄昏時に登場するのである。彼らの大部分はこの地域の出身者ではなく、昼間は他の仕事をしている外部の人たちである。かれらは、Parangkusumo で性交渉することは将来の人生に有益であるという民間信仰をその一部に利用している。この地域の人たちの信心によれば、互いに必要としていたのでこの性交渉という「伝統儀礼」は無料で行われていた。しかし実態は上記の進行をいまだ保持している人たちにとって体を売る機会となっている。

本当に、Parangtritis の将来を思い描くことができないのである。砂丘が無くなり、売春がさかんになれば、Parangtritis もただ泣くことができるだけになってしまう。神から与えられた運命として、また上記の状態を南海の女王様が快く思わないというしるしとして、厳しい味方の一人、Merapi 山がしばしば「咳をする=噴火する」ように

なるかもしれない。

第六章訳出終了 2019/5/10